2　　亀を助けた理由　　　　　　文法　文節・単語・品詞

　　　　　　読解　行動の理由をつかむ

昔、に浦島といふ者りしに、その子に浦島太郎と申しⓐて、年の二十四五のありけり。明け暮れ、海のうろくづを取りて、父母を養ひけるが、ⓑある日の㋐つれづれに、釣りをせむとてでにけり。浦々島々、入り江入り江、①至らぬ所もなく、釣りをⓒし、貝を拾ひ、みるめを刈りなどしけるところに、ゑしまがといふ所にて、を一つ釣り上げけり。浦島太郎この亀に㋑言ふやう、「㋒なむぢ、ⓓあるものの中にもは千年、亀は万年とて、命ⓔ久しきものなり。ⓕたちまち、ここにて命を断たむこと、㋓いたはしければ、②助くるなり。常には、この恩を思ひだすべし」とて、ⓖこの亀をもとの海に返しけり。

語注

丹後国＝現在の京都府北部。

うろくづ〔鱗〕＝魚の異称。

みるめ〔海松藻・海松布〕＝海草の類。

【原文】

昔、丹後国に浦島といふ者侍りしに、その子に浦島太郎と申して、年の齢二十四五の男ありけり。明け暮れ、海のうろくづを取りて、父母を養ひけるが、ある日のつれづれに、釣りをせむとて出でにけり。浦々島々、入り江入り江、至らぬ所もなく、釣りをし、貝を拾ひ、みるめを刈りなどしけるところに、ゑしまが磯といふ所にて、亀を一つ釣り上げけり。浦島太郎この亀に言ふやう、「なむぢ、生あるものの中にも鶴は千年、亀は万年とて、命久しきものなり。たちまち、ここにて命を断たむこと、いたはしければ、助くるなり。常には、この恩を思ひ出だすべし」とて、この亀をもとの海に返しけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

浦島という者の子、［　　　　］は、海の魚などを取って［　　　　］を養っていた。ある日、ゑしまが磯という所で［　　　］を釣り上げたが、寿命が長い亀の［　　　］を奪わずに、［　　　］を売って海に返した。

問二　波線部㋐・㋓の意味を選べ。〈3点×2〉

㋐ ア　生きるために　イ　ふと思い立って

　ウ　何気なく　　　エ　手持ちぶさたのために

〔　　　〕

㋓ ア　簡単なので　　イ　見苦しいので

　　ウ　気の毒なので　エ　罪深いので

〔　　　〕

問三　波線部㋑・㋒について、

(1)　すべて現代仮名遣いのひらがなに改めよ。〈2点×2〉

㋑〔　　　　　　　　　　〕　㋒〔　　　　　　　　　　〕

(2)　発音の仕方をカタカナで答えよ。〈2点×2〉

㋑〔　　　　　　　　　　〕　㋒〔　　　　　　　　　　〕

問四　二重線部ⓐ〜ⓖについて、

(1)　ⓐ〜ⓕの品詞名を選べ（重複選択可）。〈1点×6〉

　　ア　動詞　イ　形容詞　ウ　形容動詞　エ　名詞　　オ　連体詞

カ　副詞　キ　接続詞　ク　感動詞　　ケ　助動詞　コ　助詞

ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕　ⓒ〔　　　〕　ⓓ〔　　　〕　ⓔ〔　　　〕　ⓕ〔　　　〕

(2)　ⓖについて、文節の切れ目に線を入れよ。また、付属語を一語ずつ○

で囲め。〈4点〉

［　こ　の　亀　を　も　と　の　海　に　返　し　け　り　］

問五　［チェック問題］文節・単語・品詞

次の語の品詞名を選べ。〈1点×10〉

1　いざ　　　　2　たり　3　をかし　　4　いとど

5　あはれなり　6　び　7　いはゆる　8　しかれども

9　ぶ　　　　10　ば

ア　動詞　イ　形容詞　ウ　形容動詞　エ　名詞　　オ　連体詞

カ　副詞　キ　接続詞　ク　感動詞　　ケ　助動詞　コ　助詞

1〔　　　〕　2〔　　　〕　3〔　　　〕　4〔　　　〕　5〔　　　〕

6〔　　　〕　7〔　　　〕　8〔　　　〕　9〔　　　〕　10〔　　　〕

問六　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　隅々まで　　　　イ　日が暮れるまで

ウ　気が済むまで　　エ　はるか遠くまで

〔　　　〕

問七　傍線部②とあるが、亀を助けた理由を説明した次の文の空欄に入る言葉を答えよ。〈10点〉

生き物の中でも特別に［　　　　　　　　　　］亀を殺すことができなかっ

たから。

【解答】

問一　太郎／父母／亀／命／恩

問二　㋐＝エ　㋓＝ウ〈3点×2〉

問三　(1)　㋑＝いうよう　㋒＝なんじ〈2点×2〉

　(2)　㋑＝ユーヨー　㋒＝ナンジ〈2点×2〉

問四　(1)　ⓐ＝コ　ⓑ＝オ　ⓒ＝ア　ⓓ＝ア　ⓔ＝イ　ⓕ＝カ〈1点×6〉

　　　(2)　 こ の ／亀 を ／もと の ／海 に ／返し けり〈4点〉

問五　1＝ク　2＝ケ　3＝イ　4＝カ　5＝ウ〈1点×10〉

　6＝エ　7＝オ　8＝キ　9＝ア　10＝コ

問六　ア〈6点〉

問七　長生きする　〔別解〕命の長い〈10点〉

【現代語訳】

昔、丹後の国に浦島という者がおりましたが、その子に浦島太郎と申して、年が二十四、五歳の男がいた。毎日、（浦島太郎は）海の魚などを捕って、父母を養ったが、ある日の手持ち無沙汰のために、釣りをしようと思って出かけてしまった。あちこちの浦や島、入り江を、行かない所もなく、釣りをして、貝を拾い、海草の類を刈るなどしたときに、えしまが磯という所で、亀を一つ釣り上げた。浦島太郎がこの亀に言うには、「お前は、生きものの中でも『鶴は千年、亀は万年』といって、命が長いものである。すぐさま、ここで（お前の）命を断つようなことは、気の毒なので、助けるのである。いつも、この恩を思い出しなさい」と言って、この亀をもとの海に返した。

【補充問題】

問１　「齢」（１行目）の発音の仕方をカタカナで答えよ。

〔　　　　　　〕

問２　「常には、この恩を思ひ出だすべし」（６～７行目）の解釈として最も適当なものを選べ。

ア　どうして、この恩がいい思い出となるのか

イ　どうしても、この恩を覚えておくべきだ

ウ　きっと、この恩を忘れないだろう

エ　いつも、この恩を思い出すがよい

問３　本文の内容に合致するものを一つ選べ。

ア　浦島太郎は毎日魚を捕っていた。

イ　浦島太郎は父母に養われていた。

ウ　浦島太郎は亀を乱暴者から救った。

エ　亀は浦島太郎に命乞いをした。

【補充問題解答】

問１　ヨワイ

問２　エ

問３　ア